狂歌鶴後編

醉付側判者之部

へ利ウ
2.839
3止

利
2839
3止

う二十二

加賀藩
玉泉文庫

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

尾陽醉仆側

醉流庵有秀　五丁メ
○地形堂方丸　七丁メ
○松月庵雪麿　九丁メ
○佩詩堂耳風　十一丁メ
方十圓金成　十三丁メ
故篠野玉涌　十一丁メ
○條風亭松麿　十五丁メ
○白鶴堂有文　十七丁メ
桃源亭園丸　十八丁メ
泝水齋蕣雪　十九丁メ
○三藏樓田鶴麿　二十丁メ

追加

江戸酔仆側

辛崎屋松風　廿二丁ノ

辛崎側

若水屋汲子　廿四丁ノ

[illegible]

酔鼠亭

本所石原　天廣丸

[illegible]

雪　若菜　雨中夏艸　田家冬　月　鹿　山雪　隔窓　遊蛙　酒

[illegible]

嗅噴煙嗅廣九

黙式

関防

四、
五、
七、
八、
十
十三、

十五、
十八、

加点

醉亭判高黙拓出

子日　千代美いとゝ子日れ姫松を携松もゝ亀松もひく　眠
　　青柳の髪もの結れハ初つゝ称を咲くゝ　浦人
　　秋家の初ゝもちゝやゝ彩よ柳の糸紅さけ　三川三笑

苗代　八天伯ちゝゝ苗代を郎坊秋集ゝゝ苗代のゝゝ　宮笛

夏至　夏の日ハ風ちゝつゝ不かゝ夏ハ涼ゝ紅ゝやゝ　億歳

出子　むゝ子ハ産出の図ちゝゝ編縄をハゝゝ竿ハいゝ　下紫

山々立　涼ゝさハ大雨山のゝゝきれ秋のき紅ゝつゝ立ゝ雨　一内匠

橋涼　涼ゝゝ橋の橋乃夕風ハ人ゝ手人を生ゝゝゝ　一通

御祓　秋ゝゝゝちゝき中ハ祝祓ゝ編を妙あてちの編　夜雨

　　風流ゝ川の秋のゝ祓のゝゝゝ節ゝゝゝて涼ゝ秋ゝ　奇名

七夕　梯のあの星ゆかりとくらんあの葉の橋をうけて渡めり　古長

ち秋　方のくさ紅りよやたちうんち秋川波の白髪麻の吉節　貞高

水辺萩　味ほしく人をうらん人萩の花色の井よ糸を引て　成丈

月　もさしのくさ敷ちうち月妙時よやあ入る時えあ一随

〃　秋ものもあるもみちる八幡けりう兵二輪の月よおさめて　早大

山紅葉　大内の山のうらも世涙を猿の尾ちとそつかうち紫　留成

落葉　ア地もちさしあるやあくの葉の蔵月よ風の落あるれい　糸九

〃　見さらくのよくて今泊又下よ落つく月しのうち紫　東元

ち蓮葉　月てさしの八姉も又月て芸の蓮七ふ出来ともふ姉しき　安成

亀　新潟の鮭も十和ア三年法くあひのようい武代の亀　里九

朗月庵

二番町

梅　華とまさこ敷ちふ花の書と形場ちとふ宿の梅ち元

柳　柳いれ一四の柳ちりのまま八又ちちちとんちる有柳の糸

牡丹　天ものくあり一牡丹一宿黄牡丹花のちち元八地おこえて咲

荒和萩　裏もちやふ色ちとあ和萩ちとふ秋おにる川辺れ

女郎花　続人も見ちとりんを藤おきちて咲一鬼ちる花

菊　ちりくある秋もちちん赤の月もかりの仙家やちの載の菊

岩竜　梅ちて炭くありても山場ふけちりふ雪ちありふれたり

茅花　琉球も伝後もおあ一年波ふちる夏乳春ちちく

竹葉　あちちりかちあくと行ちあ秋のき海ふ春かあるも

暁色　くくき秋のちりふあちふ有明の月ちかくるちちちの色

垣根外也

朗月庵判高點抄出

點式

三保浦 三、
五葉松 五、
七種蒔 七、
門朝東 八、
十寸菜薯 十、
十三夜月 十三、
十五夜月 十五、

朱
青
賀
二夏猪

関防印

一

月次

早春雪　さゝふねのうけとるゆきは我宿ふる雪の契　玉也
梅　まくらとゝにはなはあふれしわかゝゝかゝゝ風の梅ゝ香　雪友
雉　まの浜海ちかとそはゝふく雉のつまあわゝゝかゝゝわゝゝして、　袖也
春眺望　よもきゝる伊吹の山もかすみそふ里もかゝゝ山春の雨さ　内也
猫恋　書ふたゝゝさんゝゝいる猫をさんゝゝ出る宵の猫猫　下柴
山新樹　蔵ゝゝ枝も礼義はと四町ゝゝゝゝふ八幡乃山　経尚
早苗　鶯はゝゝゝゝゝゝゝゝて行ゝゝゝゝゝゝ小田はゝ苗　千乙女
夏合歓　ちゝゝゝゝゝゝゝゝの山ふ咲ゝゝゝ親ゝ似ぬゝ中鬼中の花　花雪
漁夏月　漁人ゝ枝ゝゝゝゝゝ夏八月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ雲　池住
野夏草　野ふもまけぬゝふけ野ふ出ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ角ゝゝ草　浦風

御社

月

山紅葉

時雨

冬月

名所恋

宮雨恋

山ふ浪恋

祝

いち社しるしはどさてしくあるかくれけ年たくハ　玉丸
神みせよ佛ふもせと天下いろふさと月のさやさ　堅位
山すそ目とあねさまんとみたまのいろふ色はかゝ出く　糸丸
いろふやん今百貫のかゝ時雨生一せ盆ふくとのことふし　玲丸
ちくら葉もちかれてとくふはきくの雲書　麿丸
おのゝ月ふ家ふきくやあり山とくもぬをのおせ月　安地
あふ恋ゆゝ時ふ人て今ハあくたのおくをつくれ　外住
ふくおくゝ七百もふゝや別路ゆゝたのめ月とをして　糸女
七人の賢をけんとゝ色ふ件のくゝゆゝ友ふれ語　菱雄
清ふかくゝおもゆゝもおのまんをゝゝゝゝゝ君ゝ義代　外吉

紫蘭亭

小日向武島町　橘　有秀

戯場初午　あきハゆゝ弟ゝ酉ゝ作ゝちゝの弟いゝあゝて
雪雀　久ゝ社寺の夜ハ雑れてもゝんてゝらゝるまゝれゝ雪雀
立夏雨晴　風のゝ月をゝて通るゝ字雲あゝゝゆゝ月ゝ文月の長
向雨　雪の涼ゝけく涼き天下風汗のゝゝゝゆゝゝゝ雨
水辺ノ　月涼せハ弟の海辺ハ水豆れあゝゆゝゝゝ月ゝ雨つゝ
節季い　さゝら井さく雨しゝ物ゝのゝとゝつれゝゝ門ゝせきい
寺恋　ゝ家ゝゝあゝれもきけ記過のゝ行ゝ月ゝ君ゝ行ゝ月と
恋友恋　ゝゝゝゝゝ

紫蘭亭判高點拙出

早蕨　角位
静かな　丸泥
杜若　成丈
男魂　里丸
立月雨　恵萩
楊納涼　一通
うち扱　貞子
流ケ条
鹿
庵の蕗　梅子
菊曲
松風

點式

一四
共
七、
八
十、
十三、
十五、
一唱之曳十八、

加点

六月

別号

薄唐

花押

一

關防印

[illegible]

[illegible]

[illegible]

黙式

印を用ひて朱をくちびるに　輪を押してくちびるに　一点を含めて

よし　四一

よくく　五

うぐひす　七、

おうしく　八

ほのぼのと　十、

すん　十三、

感吟有餘　十五、

一唱三嘆　十八、

冥想玄思　二十

地形堂判高黙拙出

子曰　くもりようるてる松をいつくしひんぬ中式のちりてるかたなりよ　ちりふ

名所梅　桜の寺も拙ってんるふ証拠はい角ふ山芦ふ笑ふ梅枝　廣也

南宗梅　月のてるてるんりてるんよいは拙ふ手なら色の赤油の梅　方之

早蕨　折ってしてるまの山は梅ふひいつも料理ふ法ってんし　角住

横　河豚拙ふ持せん拙ってんふ結ってるてる西行さふ　美廣

杜若　業平の母ってる折れし杜若たってひつり在ってるを　成忠

春川奥　人の目もかってある桜の孤川ふ藻の中ってゆってる鉦　布秀

時鳥　ちる金ふく山鄙ふ初声ふ耳の拙ってる佐伯の浦人　常也

市中、　きりぬ氣の人ってるてる時鳥八千八声八百　八町　古渡

照射　十ってるの松の尖端ふ沖の来ってる廣ってるぬ常ってり　沖乗

地形堂

或る画印を用ひ

相涼　夕風のすゝもゝ　れの事よりの日の涼さ　去也

若竹　若竹のすくすくと天へとまるもいとゝ数のそなり　杉之

七夕　月と日の親のゆせつ　笑てそ天下をれる星合の空　宮住

浦月　上よ日ゝ出ぬ海ゝ　海もゝの浦の波ゝ　月　玉丸

焼蚊　涼しさの色をつくし　蚊の書風の行あきのまつ　蚊　山交

里雪　蚊の女は海ゝ　雪のつゝ白ゝ　大原の里　可志

衾　かつぎの加ゝの衾の俤ゝ　夜のゝうくる稲やとも　宿住

意　糸きれ　古人の加ゝ　ら私ゝとつくせ　会ゝ　君　里丸

別意　我ゝ人もゝ　て島陸のゝ　泣つくまぬの袖　安成

旅途　古の旅のゝ　ゝ　き　蛍丸

松月庵

尾州名古屋　豊年雪磨

梅　雪の中に　梅ゝ　蕗ゝ　蕗ゝ

古寺花　初瀬山　花ゝ　ゝ　ゝ

山鶏　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

七夕　星ゝ　衣の　ゝ　ゝ

秋夕　秋ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

雪　見ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

癒　落ゝ　返　ゝ　ゝ

家鶏意　秋も　ゝ　ゝ　ゝ

旅　雨ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

老後述懐　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

弐　五点

七、

十、

十三、

十五、

松月庵

松月庵判高點抄出

恨繽　徑好

霰　滝九

梅　春九

柳　宗政

花　玉浦

遊落花　蓼浦

歎冬　蓼久

海久立　有久

山白雨　小萩

夕良

一しほ打ふるさとの山もあり恨繽さとの花も色也こゝろ

ちのくと夜も明ぬ戸ぬひき山の秋こゝ霰ふるなり

梅咲くと宮居のまさきたゝもこゝ流も匂ふ春の花

逢坂の関は清水ゆ春柳のこゝ生やうけの逢髪

家内も飯ハ上の花豊つくこゝの時は雪こゝ

よ山川花のかゝ春ゆふちかゝるやおろふとんこ

山吹ゝ美豆色ふぬ一やだ迷ふ人小下地ゝ口ゆ

志ゝくゝ秋ゝ夕立ゝ月ゝ沼ゝ海ゝ

如ゝ市ゝ其ゝ色ゝ雪ゝ山ゝ夕立

俺ゝ紅葉ゝ夕顔ゝ

七夕　中村
菊　有年
炉開　月盛
埋火　志師丸
変恋　多賀
恋　宗打
意　長綱
松　千武
鶴　雛人
恋問

方十園　尾州名古屋　篠野玉涌

蛍　柳
秋夕　蛍
紅葉　秋夕
埋火　紅葉
恋　埋火
待恋　恋
述懐　待恋
旅　述懐

佩詩堂

尾州名古屋　玉涌男　右馬耳風

立春　曙の雪ふるねさし佳やうの湖まさまの正月はこそ

蔵　さく浦の人入小棚をかくやうにけうてはるの花屋

卯花　はしまの橋よりも浅月夫かさとうもしろ卯花の色

夏月　卯の花の月の後の新のろ夏ときくらきの小夜の中山

鹿　夜ひとりの東もけうる三田山の月よりかよふ小男鹿の妻

寒竹　さゆ紅色寒竹おもろ夜ひとりの小野ひとり冬ふ寒竹

初連戀　口紅をあらうもとをんの竹蝶のひとりん行ふ月しき

夏戀　うつけのうつ恋はれ山なけの夏けれ妹をうらめし

山家　庵の戸八代竹の山家住居ふきいつぬかり

夏　初秋ふ蘇まてうきせんのうつ行の夏

佩詩堂高點拙出

立春　明てを湖まうの霞の立春ふのうこしけてかをうのうしさ　長綱

梅　さうの花のかをうも新のつはをうやはうるその花ふうを梅　内子

五月雨　ふるまうふ夜ふ生山ふ雨ふけ草もかをうをふりけう五月雨の夜　由貞

納涼　身ふりうふ涼ふ涼ふ汗ふを涼ふをうふ月の風　渋丸

紅葉　ふ紅葉ふう入日の高ふ紅山ふ山ふれもふけうふ小ふ紅　苗継

遠村秋夕　秋をたうふのけふうき夕暮ふ村ふ煙ふふ古ふき遠の村　三義橘

鷹狩　ふ山ふふて雑ふふ鷹ふ鷹ふて秋ふ鷹ふ鷹ふ鷹ふ鷹の鷹ふ　成兼

戀　ふひふふふふふふ猫の庭ふ花ふふふの禍ふふ鶏ふ新て　呂海

秋戀　ふふ人ふ中ふ秋の涙ふ集ふふかふふふふふふ小夜のふふ風　呂文

旅　ふ竿ふふ夕の中ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ　数好

佩詩堂點式 朱夷の[illegible]点数[illegible]

園坊

方十園玉涌男

[illegible]

方十園

尾州名古屋

豆永金成

立春
鶯
初鰹
秋川
紅葉
小鳥
見戀
憲
旅
祝

點式

父篠野玉涌の印を用ゐる

花押

初号 悠々觀

大江知方

條風亭

尾州大山本町

乙雪 松丸

柳

扇

菊

子鳥

忠憲

別憲

忠祈憲

傾城

述懷

松

條風亭高點抄出

花　石久
踊　程好
立春　呂文
別戀　春久
納涼　京三
萩　内子
寒　湖曉
雪中寒梅　夫根
花　師丸
曉更　虎丸
照射

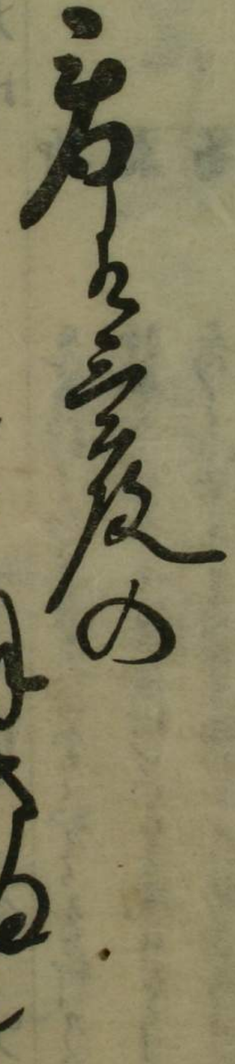
かゝる清水横ふるあるじ人の見うばはゝ
休むるも小町踊の名よりてあもたゝかる
ゆゝしきもいとゝ問かゝ神の美初のかけれのゝとあるゝて
とゝ合ゝ雪ふつ年秋かゝもゝもゝたつれぬ曉のう彩
夕風の山ゝとゝふゝ也鹿はあつものゝ山をゝゝゝさ
行年の人かゝゝゝれゝ吹ふる萩のゝゝゝゝ風をあてし
あゝゝゝ人ゝゝ麦ゝゝのゝ麦あてゝゝゝゝゝゝと麦あゝゝゝ
石貫の加ゝゝ鷹ゝあゝゝ頃ゝゝゝゝゝゝゝゝ雪
のゝゝゝゝ加ゝゝゝゝゝゝゝ射ゝゝ人ゝゝゝゝゝ
小男鹿の背山ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

點式

松宵月　十五夜
松生板　十八夜

余ゝ印ゝ月
朱ゝ板ゝ

別號　太夫館



旅人　[illegible]　雛人

枯野　[illegible]　望月

戀　[illegible]　俊古

汐干　[illegible]　素女

琴　[illegible]　封女

五月雨　[illegible]　清女

述懷　[illegible]　鰭雄

旅り　時雨　[illegible]　石久

山家　[illegible]　細長

歳暮　[illegible]　石久

白觀堂

尾州名古屋　紀有文

梅　[illegible]

除花　[illegible]

郭公　[illegible]

月　[illegible]

菊　[illegible]

冬川　[illegible]

戀　[illegible]

〃　[illegible]

契情　[illegible]

雲井花　[illegible]

懸式

印まつ用
手ぬぐひ

加点

初号 紀安麿
画名 春甫

花押

桃原亭

尾州名古屋

桃原亭園丸

霞
芽
貢裏
駒迎
紅葉
埋火
懸
返書
述懷
鴻

沂水齋

尾州名古屋

沂水齋舞雪

柳花

卯花

納涼

立秋

千鳥

戀

述懷

初

浦島とあちこちとよりとりあつめてこれをとりあつめてこれ
まさしく詠ぜしの花しまけてんとする雪の山く
月雪の行くらも遠く雪の歌の秋地頃ようけり卯花
汗あれく蛍くれをいれかくるかの水沢の涼風
独り武者帝あくの酒かまりてくの横ま遠くかて
武蔵殿くの時くとくへれくるねきつくし秋の夕くれ
ひく男後せく新のもくくくくくとくて新く隅田川
おとけて君くあく基の姿くやこの世又ちかも世代
くくく波の響ぶ雪をくてくまくくるかくくくくれ
山椒の加く國くくも辺りくくぶまく世る君てかくこき

點式

印をもて
墨をもて
点数をもて

沂水齋

桃亭主人

點式

印を
侍る
点数
を
しる

人
奥
無徒

清則
至察易

之寛

三藏樓

尾州名古屋

蘆邉田鶴磨

元日　春立つ初の年代の元日八幡ゆくそゆく初の緒

月下花　妻の歌れ月下の門を推てもれ出るかくれのさくら戸

時鳥　何ぞ里廻りかまて雲と吸ひ月と吐出す山ほとゝきす

月　波の間の月はまれて世界ふ雪の濁れ家八法

時雨　深くこそ降ぬ夜の月の見なき時ぞ時雨ふ

雪　ふるまこそ大佛とや法くらゐん誠路のぼくそ丈六

稀戀　見る孔あつ天の羽衣うたまれるきてくそ枕ア

待戀　くるま歌と待新搖れ法ふさくるくるくるくるくる

鐘　頃鉦の雪とや拂ふ風みぬ鐘のくらく嘯の絲

述懷　世の中八安き物のかてらしと知は塞翁ら馬

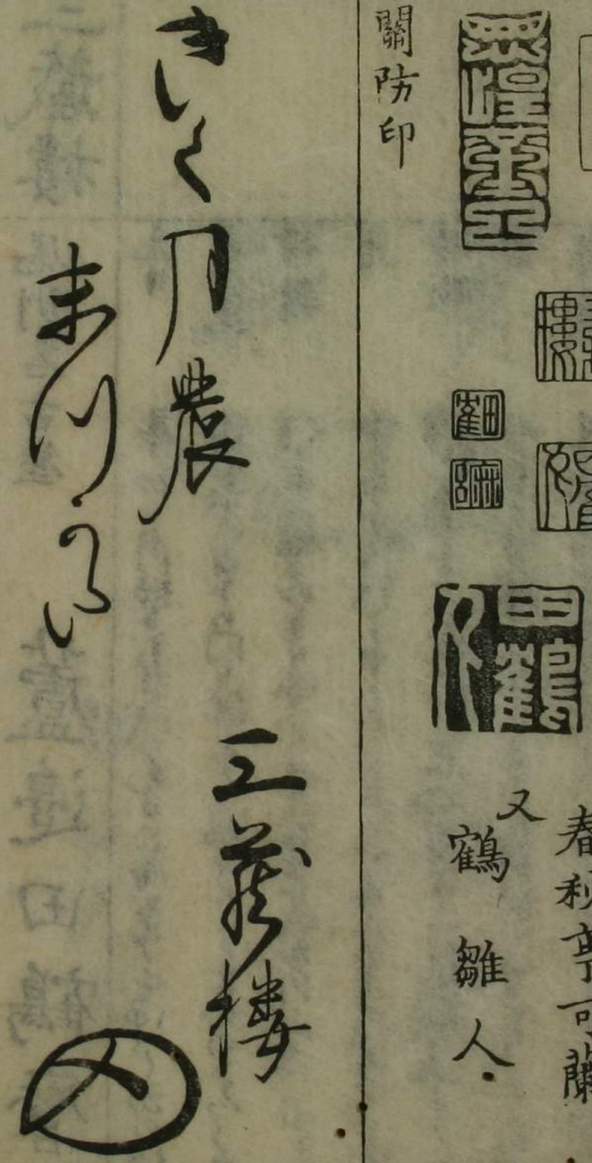
點式

おのゝ手ものゝ傍み点数と為ること

又亜印は用ふるもあれど異なる也

初号
春秋亭可蘭
又
鶴雛人

關防印



三藏樓判高點抄出

梅

横雪はよく梅の二文字にてさくらの如き事はあけぼの

藪の巣くひ〳〵枝の梅の風ちらくくて東の花の香

窓中の垂水柳根のもとに柳屑をはらめば花くくくく

関路柳

夏月

雪のうちたりくれ六月扇くくくく月は涼しさ

夕立

夕立の雨はふるあるのしく松ふくとき花のけく稲妻

納涼

樹陰迎暑

り〳〵秋の門遠ひくくとなくれば名花咲くく風は涼しさ

窮鳥は花〳〵けものき涼しさやふくろの入る杜の下風

浦秀

大磯山くくくくうくこ雲はみ方くくくくこ乙女の秋

駒迎

塩くまの浦の月毛はくくくくて郎くけける達くくの駒

月前風

蕎くくく招く袋杜の声さ袋くく風は吹出て秋の秋は月

藪坊
花宋
芳香
こゝ丸
蘭人
百原
升又
負久
為也
耳風

秋夕　呂海

雪　園丸

[illegible]　音家

雪夢　久[illegible]

待戀　[illegible]

[illegible]　鵬雄

鐘　古文

松　湖暁

富士　金成

祝　沙満

辛崎屋

神田京橋九軒町代地　辛崎松風

沢蛍　[illegible]

蓑　[illegible]

扇　[illegible]

草花感　[illegible]

月　[illegible]

川上氷　[illegible]

雪　[illegible]

夕　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

歎式

長三、朱五、青富嘉緑・七、青登喜義能緑十三、

加点

朱 幸さん

賀 雨声軒

青

別号 一葉卿

幸崎屋判高點拔出

元日

初春

浦の雁

紫の月

春の歌

山吹

更衣

山新樹

五月雨

蟬

樂位

花屯

茶曲

玄葉

峰の月

山人

松

香蘭

雪盛

湯宇丸

細流　夕くれの雲のあてさいろくくのうるふ浦の塩しき　里住
時雨　さりやくさくのうるふ浦よはさきさくはれて時雨ふる雲　月衣
雲　あくさの声よりをとりてかくるさくもあるくの雲　精伯
草村雲　雲の海あてはしくさ草村をとりてつくるあくさ雲の雲　松成
海辺月　くもつくのうら海辺をさくしはくさくよりくくく

點式

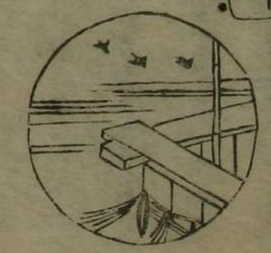
イヤモ青肉

白 花を盛 七、

月を環坐喜 十三、

加点

花押



初号橘の一路子

若水屋判高點物出

元日 いとせもうらめぬまちあひぬまの松のえをうる初日のうらき 万葉集

松みどりよ山道もりさ雪のさをうつ玉ぬきかすかの 多摩

消りけしうるまもある言ふさてもあわよ声つうあり 志摩

初橋 雄とも池よりけ〳〵橋元やの候初一枝もうるく 松笠

柳 まくれハ山をとさ風のまふ山とくうる者柳の糸 花暖

〃 雪のうよりてのひれハのり花ありてうゆるる枝 連人

上巳 位ある人をいりあるしりくうりてうくふ花のうるつ 物さ

鯉 みて咲ひんさ多ゆもんうけ百年ふ松の恵とて 面影

〃 浄うりのうくたまの高帽よ恵うあるもうまをつくるひ 曙月

五月五 さひうくれるをてうきもうくおのまんどうあるかうる 下位

川縁　[illegible]

草村虫　秋の野の草の根もとに虫なくなるのの声

紅葉　[illegible]

雨中紅葉　[illegible]

炭竈　[illegible]

寒松　[illegible]

名立恵　[illegible]

近恵　[illegible]

久恵　[illegible]

酒　[illegible]

文化三歳在丙寅春王正月發兌　式亭三馬輯

製本所

嫌客書舗

京都寺町通　箸屋善助

大阪心齋橋　河内屋太助

尾州名古屋　永樂屋東四郎

江戸通油町　蔦屋重三郎

江戸數寄屋橋御門筋南江下ル山下町　萬屋太治右衛門

萬屋太助